

熊 事 研 会 報

第 8 7 号

平成19年6月30日

発行人 熊本県学校事務研究協議会
会長 川上 安生

編集代表 研究部長 藤本 久美子
〒 869-1501 阿蘇郡南阿蘇村両併 995
Tel 0967(62)0126 Fax0967(62)0191

< 今回の主な内容 >

- ・会長挨拶
- ・新・旧事務局長挨拶
- ・第1回理事会だより
- ・新役員紹介
- ・HP 規程・表彰規程
- ・研究部だより
- ・地区研紹介
(荒尾・玉名地区)



「 新たな学校事務の時代へ 」

～ 学校事務職員制度60周年を迎えて ～

熊本県学校事務研究協議会 会長 川上 安生 (東部中学校)



新しい年度を迎え、会員の皆さまにおかれましては、新たな気持ちで毎日の業務に取り組んでおられることと存じます。また、早いもので、一学期も終盤にさしかかり、年度はじめの業務も一段落し、事務部の経営もやっと軌道に乗ってきた頃ではないかと思えます。

ところで、6月8日の第1回理事会におきまして、私は、昨年度に引き続き今年度の会長に選出されることになりました。多忙で、健康不安もあり、今年度末には定年退職を迎えるような私が会長を務めることは如何なものか、という思いは強くあります。しかし、お引き受けした以上は理事、事務局、研究部の皆さまのお力添え、また、会員の皆さまのご協力、ご支援を得ながら、微力ではありますが、頑張っていこうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

さて本年度の役員体制についてですが、本年度は新しく事務局長として、坂本一博先生(麻生田小)が理事会において選出されました。昨年度まで3年間に渡って事務局長を務められた今坂文枝先生(京陵中)には、熊事研のために大変ご尽力をいただきました。この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。なお、新事務局長の坂本先生は、県事務研の事務局体制がスタートした当時(昭和58年)から事務局を経験され、また昨年度までは理事、副会長としても活躍されました。今後共、坂本先生と、新たに情報班ができてパワーアップした事務局の皆さんの活躍を期待したいと思います。

また、研究部長は、引き続き藤本久美子先生(両併小)にお願いすることになり、理事会において選出されました。藤本先生は、理事をされた後、研究部に入られ、昨年度から研究部長として活躍されています。県大会の研究発表の準備から、新しい課題への取り組みなど大変かと思いますが、藤本先生と研究部の皆さんのさらなる活躍を期待します。つきましては、会員の皆さまの事務局、並びに研究部へのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

ところで、本年度は、戦後、学校事務職員制度が発足してから60周年という記念すべき年になりますが、皆さまもすでにご承知の通り、来年度から「加配なき学校事務の共同実施」が全県下で実施されることになり、この60周年の節目の年に「学校事務のありよう」もまた大きな節目を迎えようとしております。今後、この学校事務の共同実施を境として、学校事務の姿、ありようも大きく変容していくことは確実な状況となっております。

もし来年度を、熊本県における**共同実施元年**と呼ぶならば、まさに本年度は**共同実施零年**ともいうべき年となり、現在、すでに来年度の共同実施にむけたさまざまな準備や試行が、私たちの予想を上回る早さで展開し始めています。

しかしながら、この学校事務の共同実施につきましては、今なお会員の皆さまの間に、さまざまな疑問や戸惑い、先行きへの不安、そして温度差が出てきているのも事実です。とはいえ、熊事研としましては、これからの学校事務像を構築していくためには、この学校事務の共同実施は、避けては通れない重要な課題の一つであると認識し、各方面の関係各位とともに積極的に研究に取り組み、その具現化に努め、今後さまざまな形での発展を図っていく必要があると考えております。つきましては、今後、各地区事務研におかれましても、学校事務の共同実施に係る研究、研修に鋭意取り組まれ、各市町村段階での学校事務の共同実施の具体化、具現化に努め、積極的に行動されますようお願いいたします。そして、学校事務の共同実施が全県下で順調にスタートし、軌道に乗ってきた時、まさにこのことが新たな学校事務への第一歩となり、そこから学校事務の新たなカタチが生まれ、さらなる可能性も広がっていくだろうと確信しております。従いまして、熊事研といたしましても、共同実施などを始めとするさまざまな最新の情報(全国レベルの情報も含む)を発信し、情報の共有に努めながら、学校事務の研究を一層推進してまいりたいと思っております。

そして、会員の皆さまが、共同実施や職務標準等の重要課題につきまして共通した認識と理解を持ち、同じ方向のベクトルで取り組むことができますよう努力してまいりたい所存です。

しかしながら、今回の熊本における共同実施につきましては、私なりに、幾つか懸念する点もございます。そのことを少し紹介させていただきますと、まず、その一つは、新しい共同実施組織（＝学校事務支援室）が、十分に機能し、円滑に運営されていくためには、早い段階でみんなが、共同実施についての共通理解なり共通認識を持ち、同じベクトルで取り組んでいくことが最も肝要であると思われまます。しかし、そういった体勢の確立が、あと数ヶ月で果たして可能なかどうか、という懸念があります。

次に、共同実施をスムーズに展開していくためには、どうしてもチームワークが強く求められますが、歴史的にも現実的にもチームワーク面が弱いと言われる学校現場にあって、また仕事の上でチームワークの経験（体験）が少ない学校事務職員が、すみやかにチームワークのノウハウや精神を身につけることができるかどうか、という懸念もあります。

それでは、私たち学校事務職員が、あまり慣れないチームワークを上手に構築していくには具体的にどうすればいいのか、ということ、先日、私の友人と少し話し合ってみました。そこで、その時の「結論らしきもの」を、一つの例として、ご紹介させていただきますと、**チームワークのキーポイント（秘訣）**は、一応、以下のようなことが挙げられるのではないかと、ということになりました。



①「元気よく挨拶をしよう！」

「えっ？なんだ、挨拶か」と思われるかも知れませんが、挨拶はすべての基本中の基本です。すべてはここから始まります。

なお、ここで言う挨拶とは、「お早うございます。ありがとうございます。失礼します。すいません。」などといったすべての挨拶（オアシス）のことです。

②「人を誉め、人を立てよう！」

「人を立てれば蔵が立つ」という言葉もあります。まず、自分から先に人を立てていくことが大切です。そうすれば、必ずそれが自分にも返ってくるはず。自分だけを立てようとする人には、残念ながらチームワークもリーダーシップも期待できません。

なお、お互い議論は大いにさせていただいて結構（必要）ですが、少なくとも、お互いの足の引っ張り合い、引き倒しだけは絶対にやめたいものです。お互いが、やる気をなくして、消耗するばかりです。

③「自分の役割（責任）を果たそう！」

チームの和は大切ではありますが、和があってもチームワークがいいとはかぎりません。たとえ不幸にして、グループのメンバーすべてと大ゲンカをしていても、組織における自分の役割はきちんと認識し、その役割、責任を進んで果たしていく、これがプロですし、これこそがチームワークの姿だろうと思います。

④「<ほう、れん、そう>の徹底を！」

何事も、お互いに、速やかな「報告、連絡、相談」をすること、すなわち円滑なコミュニケーションの確保に努めることが何よりも大切です。（中でも、特に「相談しようという姿勢」が重要なポイントです。）

⑤「人の話を聞く耳を持つ！」（意見に耳を傾け、理解しようとする姿勢）

人の話を謙虚に聞き、受け止める器量（耳）をもつことは、前項④の円滑なコミュニケーションを行う上で必要不可欠な条件です。自分の意見だけにこだわって、聞く耳を持っていない人には、残念ながらリーダーシップも、チームワークも期待はできません。

・・・というのですが、以上、ご紹介したチームワークのポイントは如何なものでしょうか？

会員の皆さまも、この機会に、「どうすれば、共同実施組織や学校現場におけるチームワークや、グループワーク、あるいは、リーダーシップなどがうまくいくのか？」ということ（＝ノウハウ）を研究し、考えていただければ大変有り難いと思います。とにかく、これからの学校事務を巡る状況の変化に私たちが的確に対応していくことは、簡単なことではありません。しかし、少し視点を変えれば、これは学校事務をさらに進化、発展させていくビッグチャンスでもあります。

つきましては、私たちは、さまざまな面で厳しい時代を迎えてはおりますが、会員の皆さま、どうか一緒になって、手に手を携え、助け合い、励まし合いながら学校教育と学校事務の新たな未来のために頑張っていきましょう。

（平成19年6月22日 記）

